

# 農業委員会だより

## 認定農業者との意見交換会



認定農業者連絡協議会各支部理事と意見交換

認定農業者との意見交換会は1月27日、ホテルシティプラザ北上で開催されました。これまでJAいわて花巻の市内6支店エリアごとで開催されてきましたが、本年度は地域を越えた農政課題の把握も重要であるとして、北上市認定農業者連絡協議会各支部選任理事と市農業委員会役員による意見交換会として行われました。

交換会では①農地法の一部改正に伴う企業の農業参入②農地の利用集積③農業関係機関などへの要望などの諸課題が提起され、農業振興や農業経営の安定に向けた活発な意見交換がされました。

参加者は、企業の農業参入に伴い集落営農組織をはじめとする地域の担い手などの農地集積による賃借

料のあつれき、水争い、大型農業機械による通作道などの崩壊、補助金目当ての農業参入などを懸念。この度の改正農地法の施行に伴い、農地を守る農業委員会の果たす役割は従前以上に大きくなり、適正なる農地管理指導を期待する意見が多く出されました。

農業委員会では、地域農業の中心的な担い手である認定農業者からの意見・要望を基に、農林業施策に反映させようと毎年、市や県などに対して提言書を提出しています。

## 家族経営協定を締結

家族経営協定締結調印式は2月22日、和賀庁舎で行われました。

二子町鳥喰の八重樫一男さんの家族で本年度6組目。市内で67組目となりました。

家族経営協定は、家族全員がそれぞれの意欲と能力を充分に発揮できる環境づくりのため、一人ひとりの役割と責任を明確にし、経営の目標や報酬、休日の取り方、移譲計画、生活上の諸事項などについて話し合い、取り決めたルールを文書で結ぶものです。同協定を締結することで農業経営への参画意識が高まり、後継者の確保や育成、経営力の強化にもつながります。

八重樫さんは「専業農家としての

自覚と誇りを持ち、安定した農業経営と地域農業の発展に今後とも頑張っていきたい」と話していました。



魅力的な家族農業経営を目標に協定を締結する八重樫さん一家

## 農業者年金協議会研修会

平成21年度北上市農業者年金協議会研修会は2月2日、ふるさと体験館北上で開催されました。市内の年金受給者71人と関係者が参加。過疎地区を一大観光地にしたゆずりの里かおり村会長の石河智舒氏が「減気を元気に変える」と題して講演を行いました。

ゆずの木のオーナー制度で知られる栃木県茂木町の北限にある元古沢地区の棚田の状況をゆず山に変ぼうさせた取り組みなどを紹介。石河氏は嫁さんが来る元気な村に再生したいと起死回生のアイデアを模索した結果、地元にあるゆずの古木に目を



地域の減気を元気に変えた石河氏

付け、ゆずの苗木を植林。「みんなでやっペーゆずの里」を仕掛け、元気を始動させ、『こだま運動』と『カキケコ運動』を提唱し、展開しました。こんな山あいだから簡単にこだまが響いたと話していました。

『こだま運動』とは、こだまには「元気こだま」と「減気こだま」があった、前者は「みんなでやっペー」と叫ぶと「がんばっペー」と返ってくる。後者は、「こ」は困った、「だ」はだめ、「ま」はまいったという意気が減気となるもので禁句としました。また、『カキケコ運動』は、「カ」は金をかけずにあるもの生かせ(埋もれているお宝発掘)、「キ」は気力で乗り越える、「ク」は工夫知恵を出せ、「ケ」は景観づくり、「コ」は後継者づくりを合言葉としました。

林業の衰退と高齢化で里山が荒れ放題となった集落を元気に変えた地域づくり、嫁さんが来る村づくりへ

■審議データ

農地の権利移転・利用権設定審議内容

農地法	審議件数 面積(m <sup>2</sup> )		
	12月	1月	2月
3条	7	2	6
	101,808	65,148	77,974
4条	0	2	1
	0	891	866
5条	6	4	3
	6,429	4,074	3,740
適用外 証明	0	0	0
	0	0	0
農用地 利用集積 計画	68	75	69
	517,338	394,526	419,042

- ◎農地法3条…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転する場合
- ◎農地法4条…自己所有農地を転用する場合
- ◎農地法5条…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転して転用する場合
- ◎農地法適用外証明…農地を20年以上他の目的に使用しており農地の復元が不可能な場合
- ◎農用地利用集積計画…農地の所有権、賃借権などの権利を設定または移転する場合で受け手側が大規模農家の場合

若い力で地域に活性化を



佐藤 昌平 さん  
(35歳・相去町下成沢)

佐藤昌平さんは高校卒業と同時に就農し、漫然と農作業に明け暮れていました。5年前、経営移譲を受けたことで、やっていけるという思いが一気に膨らんだそうです。当時は、水田6畝の経営面積。水田経営で所得を安定させるには、まず規模拡大が不可欠と考え年次計画

で集積し、現在13畝(水稲9畝、転作大豆4畝)と当時の2倍強まで農地集積を果たしました。地域においては、北上南部大豆生産組合や南部無人ヘリ防除組合のオペレーターとして活躍するなど、水稲、大豆の安定生産に貢献。また、特別栽培米生産グループの一員でもあり、仲間との研さんを重ねながら農水省ガイドラインを順守した低コスト、低農薬栽培に積極的に取り組んでいます。

今後の目標は「更なる農地集積に取り組み、経営基盤をもっと強固なものにしたい」と話していました。自家の将来展望をしっかりと見据えている佐藤さん。地域の担い手としてますます活躍されることを期待します。

(農業委員 松田 繁)



安心・安全、信頼とおいしさを求め、消費者殺到

母ちゃん市へようこそ

の取り組み事例を栃木弁を交えながらユーモラスに話され、笑いのある楽しい研修会となりました。

(農業委員 菅野 良作)

北上地方生活研究グループ主催の産直「母ちゃん市」は2月7日、江釣子ショッピングセンターパルで開催されました。

この日のために雪から掘り出した甘みの凝縮した野菜やハウスで育てた朝採り葉物、手塩にかけた漬物、餅、だんごなどが所狭しと陳列され販売。天候に恵まれた当日は、安心・安全、信頼とおいしさを求める多くの人が、途絶えることなく会場を訪れ、調理方法や漬物の作り方など、よもやま談義に花が咲き、楽し

せんか 全国農業新聞を購読しま

全国農業新聞は、先進的な農業経営者の取り組み事例や農政問題の正確、公正な情報と解説を中心に、農業経営や暮らしの改善に役立つ情報を提供しています。毎週金曜日の発行で、一月月の購読料は600円です。購読のお申し込みは北上市農業委員会事務局へ。全国農業新聞は、がんばる農業者の皆さんを応援します！

いひとときとなりました。産地間競争が激化する中で、新鮮で安全な農産物の供給が求められている今日、同グループでは「地産地消は人と人とのつながりであり、顔の見える関係づくりが最も重要」として生の声が聞けるリピーターの期待を裏切らないよう常に心掛けています。会員相互による野菜や花苗づくり研修のほか、漬物やお菓子作りなど農産物の二次加工品開発にも積極的に取り組み、定期的な「母ちゃん市」の開催に励んでいます。出品した会員は「近年の食生活の乱れが生活習慣病を生み、和食が見直される中で、地元郷土に生まれた風土食いっばいの手作り食品を次世代にしっかりと継承したい」と笑顔で話していました。

(農業委員 佐藤光子・佐藤和子)